

水の 話

FujiClean NEWS

2024
Autumn

No.205

[特集]

時代とともに 地域を支える用水機能

400年の歴史の中で変遷する山形五堰やまがたごせきの役割



時代とともに 地域を支える用水機能

400年の歴史の中で変遷する山形五堰やまがたごせきの役割

住宅の間や道の片隅など、山形市のまちの風景に溶け込むいくつもの水路。

今からちょうど400年前の江戸時代、まちに水を引くためにつくられたのがこの「山形五堰」です。

農業用水、生活用水、産業用水と、時代とともにその役割を変えながらも、

今もなお生き続ける山形五堰とまちとの関わりを紹介します。

扇状地のまちを流れ、まちを潤す歴史遺産。

山形市内を流れる5つの堰（用水路）

四方を山に囲まれ、一年を通して豊かな自然に恵まれたまち、山形市。昔から続く稲作をはじめ、近年はさくらんぼやぶどう、ラ・フランスなど数々の果物が全国トップクラスの収穫量を誇るなどフルーツ王国としても知られています。豊かな農作物をはじめ、この地のさまざまな産業を支えてきたのが、今も市内を流れる用水路「山形五堰」です。山形五堰は、「笹堰」「御殿堰」「八ヶ郷堰」「宮町堰」「双月堰」の5つの「堰」の総称で、今から400年も前となる江戸時代につくられました。山形市の中心部を流れる馬見ヶ崎川から取水され、枝分かれを繰り返しながら中心市街を放射状に流れています。総延長は約115キロメートルにも及び、これほどまでに広範囲に広がる堰は全国的にもたいへん珍しく、山形市の歴史的財産です。またこうした歴史的価値だけでなく、流水を分配する独自の方策や山形市のさまざまな産業の発展に貢献してきたことなどが評価され、2023（令和5）年11月に、歴史的な価値ある農業用水施設を登録する「世界かんがい施設遺産*」に選ばれています。

「命の水」馬見ヶ崎川

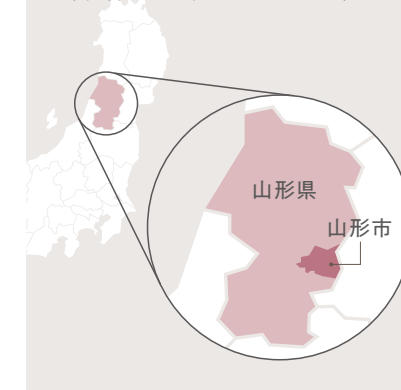
山形市は、東西10~20キロメートル、南北約40キロメートルと縦に長い山形盆地の南部に位置しています。その市街地は奥羽山脈を水源とする馬見ヶ崎川扇状地の上に形成され、東西に2つの大きな河川が流れています。東の馬見ヶ崎川、西の須川です。このうち須川には、蔵王温泉地区からの鉱毒水が流入するため酸性が強くなり、農業に使うことができません。そのため須川東側のかんがい用水等は、馬見ヶ崎川一つに依存しなければなりません。さらに馬見ヶ崎川の源流である蔵王山系は降水量が比較的少ない上、保水力に乏しい地質。また集水面積が狭く急流であることから、一度大雨が降れば洪水に見舞われ、雨が降らない日が続くとすぐに渇水を起こしていました。毎年のように水不足に悩まされ、度々水争いも勃発。このような河川に造られた山形五堰では、水量や配分に常に気を配らなければなりません。馬見ヶ崎川・山形五堰の水量は稲が枯れるか生きるかに直結することであり、農家の人たちにとっては、まさに「命の水」だったのです。

*世界かんがい施設遺産とは 2014（平成26）年に国際かんがい排水委員会が創立した、建設から100年以上が経過し、かんがい農業の発展に貢献し、歴史的・技術的・社会的価値の高いかんがい施設を認定・登録する制度。現在、世界19カ国161施設が登録。

DATA 2024年5月現在

山形県山形市
（人口240,626人 世帯数104,346世帯）

山形市は山形県の中部東に位置し、県で最も人口が多い中核市に指定されています。山形盆地の南部3分の1ほどを占め、東に蔵王連峰、西に朝日・飯豊連峰が連なる自然豊かな都市です。扇状地の上に市街地が並び、気候は典型的な内陸性気候で、夏と冬の寒暖差が激しいのが特徴。市の東部にある蔵王国立公園や山寺などの観光地を有し、歴史と自然の魅力があふれるまちです。



山並みの間に美しい扇状地を形成する山形市【山形市総務部広報課提供】

山形の礎を築いた名将・最上義光

かつて山形は「最上」と呼ばれ、平安時代中期頃には出羽路の主要な宿駅の一つとして知られていました。その後、政治文化の中心に発展したのは室町時代中期以降。1356(延文元)年に室町幕府の役人として山形に入部した斯波兼頼が、翌年1357(延文2)年に現在の霞城公園の場所に山形城を築きました。そして、兼頼の11代目の子孫となる最上義光(斯波氏はのちに最上姓に変更)が、現在の山形町のまちの基礎を築いたと言われています。義光は、1600(慶長5)年の北の関ヶ原と言われる長谷堂合戦で徳川方として戦った功績によって、一躍57万石の大大名に躍進。山形城の大改修をはじめ城下町や最上川交通路の整備、庄内平野を開発するとともに領内各地に優れた文化人を移入

るなど、山形の発展に大きく貢献しました。山形城の城郭は扇状地の扇端部に、城下は扇中部に配置されました。通常は城下町と言えば城の下に配置しますが、山形の場合はその逆になっており、これは、義光が町人の生活を重んじたとも、地下水脈にあわせてとも言われています。

大洪水をきっかけに山形五堰が誕生

大大名にかけあがった最上氏ですが、義光の孫である義俊の頃になると家臣の対立が表面化し、義光・家親・義俊の3代、たった20余年で改易*されます。その後、山形城主として入部したのが、徳川家家臣として知られる鳥居忠政です。そして忠政が山形に入部してすぐの1623(元和9)年に5日間降り続いた大雨によって馬見ヶ崎川が大洪水を起こし、町

中が水浸しになったとともに、山形城のお濠が壊れる出来事が起こりました。これを見かねた忠政は、翌年の1624(寛永元)年より洪水から町や城を守るため、馬見ヶ崎川の流路を町から遠ざける大工事を開始。工事は、盃山の一部を切り崩し、現在の松原浄水場付近に堤防をつくる、現在と同じような川の流れへと変えるものでした。そして流路が変わっても、それまで水を使ってきた人々が引き続き水を使えるように、馬見ヶ崎川に5箇所の取水「堰」を設置したことが「山形五堰」のはじまりだと言われています。

当初は5つでなく、妙見寺西方を取水口とする大高堰を2つに分けた上堰・中堰と、大高堰水門から下流に許された下堰の三堰のみだったと言われています。その後、宮町、今塚村の願いにより下堰取入口から下流の左岸に宮町堰、そ

の対岸に双月堰が許され、五堰が定まったとされています。その後いくつかの変遷をとげ、上堰は「笹堰」、中堰は「御殿堰」、下堰は「八ヶ郷堰」となり、「宮町堰」「双月堰」と合わせて現在の五堰となっています。

※罪によって官職や身分をとりあげること。江戸時代に武士に対する刑罰の一つとして行われました。

column 馬見ヶ崎川の名前の由来

馬見ヶ崎川は、かつては白川と呼ばれていました。忠政が馬見ヶ崎川の流路を変える工事を行った際に、盃山から馬に乗って山形の町を見下ろしながら工事の指揮をしたことから「馬見ヶ崎川」となったと言われています。



1. 霞城公園の二の丸東大手門近くに置かれている最上義光騎馬像 2. 山形城跡を整備してつくられた霞城公園の二の丸東大手門。1991(平成3)年に復元されました
3. 奥羽山脈に源を発し、市街地の東を流れる馬見ヶ崎川。堤防沿いには約200本の桜が並びます
4. 馬見ヶ崎川の南側を流れる宮町堰

山形五堰マップ



山形五堰の水が支えてきた山形市の暮らしと産業。

山形五堰の水により生活や産業が発展

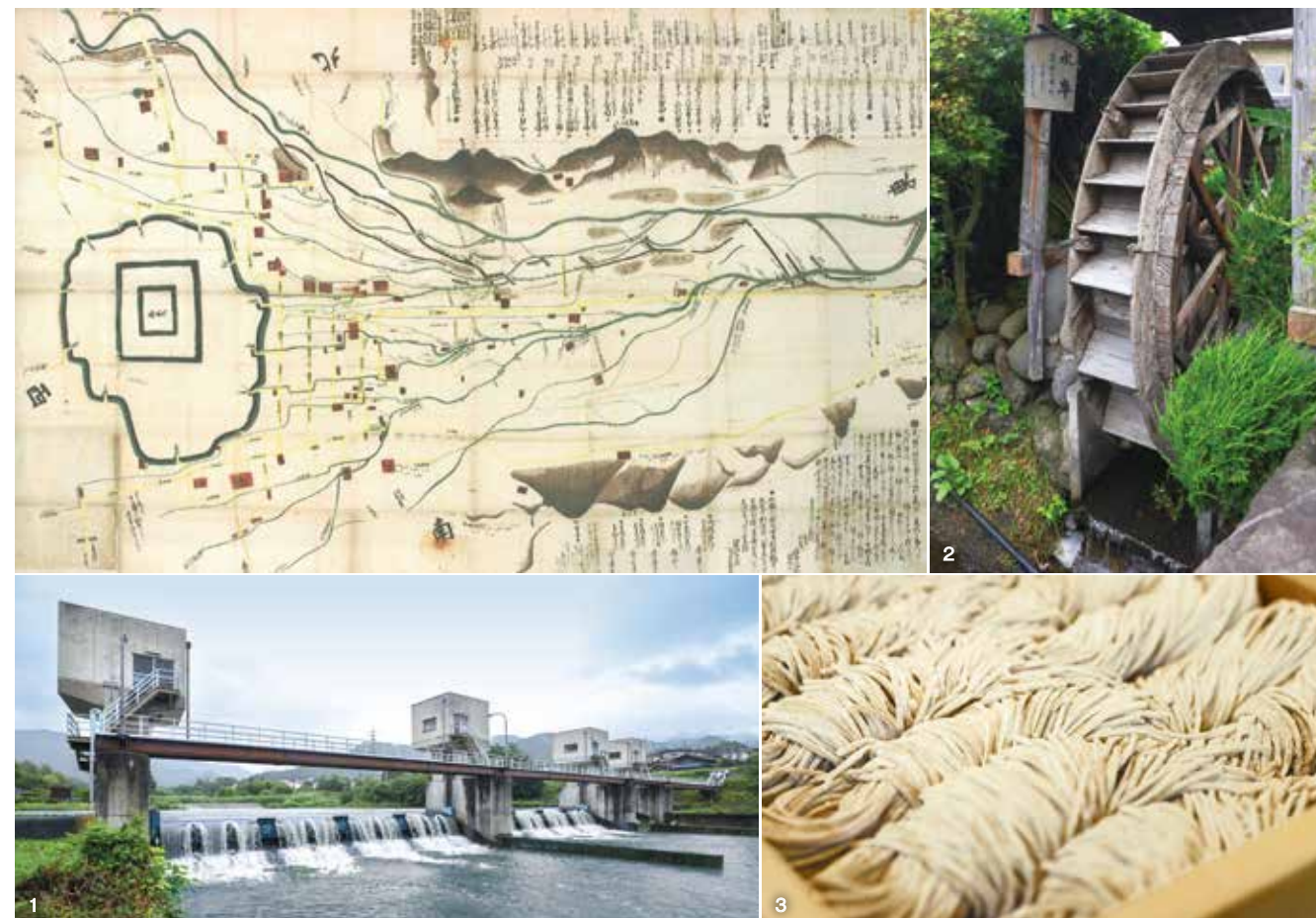
山形五堰の目的は、第一に扇端部に広がる水田を潤す農業用水としてですが、それ以外にも山形城の城濠の水を確保することもありました。1818(文化15)年に書かれた流路図を見てみると、五堰は城下を網の目のように流れ、御殿堰の全てと笹堰の一部の水が山形城の城郭に流入しています。城濠に流入された水は、防備の要である城濠を維持するために重要だったことはもちろん、その下流域に暮らす人々にも飲料水をはじめ洗濯や洗物などの生活用水として利用されていました。また火事の時には、消火用の水としても活用されていたようです。さらに江戸時代後半になると、水の流れる力を使った「水車業」が営まれ始めました。水車業としては「精米」「製粉」「ふとん打ち」などがあり、最も多い時には御殿堰と宮町堰で30軒くらいあったと言われています。さらに明治・大正・昭和の初期に入ると、五堰の水は「製紙工場」や「製糸工場」、さらに養鯉・染物・鰻問屋、紙すきなどさまざまな産業で活用されるようになり、その重要度はますます高くなっていきました。

最上川の水を引き込み水不足問題が解消

山形五堰の水が、地域にとって欠かせないものになる一方で、水源である馬見ヶ崎川の水は雨が降らないとすぐに少なくなってしまい、長年、水不足に悩まされていました。農家の人たちは、分水のルールを作ったり、井戸を掘ったりと、工夫を凝らしましたが水不足は解消せず。日照りなどが続くと、水泥棒や水争いなどが頻繁に発生していました。

こうした水不足の問題を解消するために、1972~1986(昭和47~61)年にかけて山形市の西部の山に9.4キロメートルもある長い水のトンネル(西部幹線トンネル)を建設したことで、最上川の水を山形盆地に利用することが可能となりました。この水のトンネルは朝日町の宮宿の近く「最上川取水口」から水を取り入れ、山辺町を通して山形市の水田へと注ぎ込まれます。これにより、山形市内の多くの田畑では豊富な最上川の水を使えるようになり、課題だった水不足が解消され、農民同士の水争いもなくなりました。またこの時に馬見ヶ崎川合口頭首工が作られ、五堰の取水口が一つにまとめられました。

■ 1818年に書かれた馬見ヶ崎川五堰流路図 [小白川財産区所蔵]



1. 山形五堰の水が取水している馬見ヶ崎川合口頭首工
- 2,3. 水車で粉を挽く時代から営業している酒井製麺所の水車(レプリカ)。綺麗な水と山形の風土がつくる麺の味は、今も受け継がれています
<https://www.sakaiseimen.com/>
4. 山形市では、昔から耕地と水利管理に工夫して、おいしい山形米を育てています
5. 伝統的な石積み工法が見られる御殿堰
6. 清流が戻った堰には梅花藻の可憐な花が咲いています
7. 農業関係者や地域の人々が協力しあって取り組む五堰クリーン活動
8. 山形大学の周辺にある笹堰の清掃活動

高度経済成長による水質悪化からの復活

時代が高度経済成長期に入ると、生活排水や工業廃水の流入によって山形五堰の水質悪化が急激にすすんでしまいました。また、石積みの水路は、利便性が重視されるコンクリート水路や暗渠に改修されました。山形五堰の総延長115キロメートルのうち、昔の石積み水路が完全な形で残っているのは、わずか8キロメートルです。

その後、1961(昭和36)年頃から下水道の整備が始まると、次第に家庭などの生活排水が入らなくなっていき水質改善が進行しました。さらに市民ボランティアによる清掃活動なども盛んに行われるようになり、1997(平成9)年からは「五堰クリーン作戦」がスタートしています。年を追うごとに参加者も増え、地道な清掃活動や啓発活動が実を結び、今ではかつてのきれいな流れを取り戻しています。2005(平成17)年頃には笹堰や御殿堰では清流にしか生息しない梅花藻の花が咲き、ホタルが見られるようになりました。こうした取り組みによって2006(平成18)年には農業水産大臣により「**疏水百選**」にも認定されています。

まちの記憶を未来へつなぐために

現代にまで受け継がれてきた山形五堰を、さらに後世へと残していく活動も行われています。山形大学の公認サークル「まちの記憶を残し隊」は、結成当初から地域の「記憶」を残す取り組みを行っており、その活動の一環として“「山形五堰」を後世に残したい!”プロジェクトをスタートさせました。山形大学白川キャンパス周辺にある笹堰では、山形市農村整備課と協力して定期的に清掃活動を行うとともに、同大学の生物学研究会と連携して生態系や水質などの調査活動を実施。堆積したゴミや土砂、多くの雑草を取り除くことで、心地よい親水空間の復活を目指しています。また、より多くの人に山形五堰を残す意義を理解してもらうため、山形五堰の魅力や見どころをまとめたパンフレットを作成しました。学生たちが現地で撮影した写真や、地元の小学生と一緒に考案した山形五堰のゆるキャラを使用したパンフレットは、イベントやホームページで配布し周知活動に役立てています。こうした活動の一つひとつが、地元の人が見失っていたまちの魅力に気づききっかけにもなっています。



1. 山形五堰の水を利用して整備された御殿・ハヶ郷堰親水広場
2-3. 昔ながらの石積み水路を活かして整備された七日町御殿堰。個性豊かな店舗やのぼりが並び賑わっています

新たな「癒やし」と「賑わい」を創出する水路の未来。

今を支える山形五堰の機能

時代ごとに利用方法や形態を変え、さまざまな面から暮らしを支えてきた山形五堰ですが、近年では「地域用水機能」としての役割に注目が集まっています。地域用水機能とは、農業用水が併せ持つ多様な機能の総称ですが、山形五堰では、以下のような機能への期待が高まっています。

- ① 親水機能／水音を聞きながら夕涼みや散歩が楽しめる
- ② 防火用水機能／火事等の災害発生時の防火用水
- ③ 地下水涵養機能／石積み水路から水を地下に浸透させる
- ④ 生態系維持・保存機能／水辺の生物を守る

このように地域を支える重要な機能を持ち合わせていることから、改めてその価値が見直され、山形市では山形五堰の保存・維持を目的に、崩れかかった石積みの補修や危険箇所の整備を行いました。1999(平成11)年からは山形県とともに山形五堰地区地域用水環境整備事業を実施し、山形大学周辺の笹堰や、錦町神明神社北側のハヶ郷堰、市立第六小学校東側の笹堰などの老朽化した石積み水路やみなみ公園の天沼を整備することで、気軽に水と親しむ親水空間を創出し、まちに安らぎを与えています。

山形五堰を活かした新しいまちづくり

さらに山形市では、歴史的な地域資源である山形五堰をまちづくりや地域の活性化に活かす取り組みも進められています。七日町地区では中心市街地の回遊性の向上を目指した地区整備が進められ、2010(平成22)年に「七日町御殿堰」が誕生。和モダンな雰囲気が漂うまち並みは、山形の歴史と伝統を感じさせる癒やしの空間となっています。さらに2021(令和3)年からは、「御殿堰」を観光資源に活用しようと御殿堰整備事業もスタートしました。コンクリートで覆われていた堰を開けて水の流れることができるようにし、昔ながらの玉石を積み、風情を感じる水路にリニューアルし、2024年3月に完成しています。御殿堰の周辺では、新たな空間を活用してマルシェやイベントが開催されるなど、憩いと癒やし、そして賑わいを生み出しています。

1624(寛永元)年につくられた山形五堰は、今年、2024(令和6)年でちょうど400年を迎えました。街中に張り巡らされた水路は、山形市のまちの発展と人々の暮らしを支え続けてきました。これからも時代に沿って役割を変えながら、この地域の動脈となって活力を生み出していくでしょう。

【取材協力・写真提供・資料提供】
○ 山形市農林部
○ 農村整備課計画指導係
○ 山形市総務部広報課
○ 山形大学 まちの記憶を残し隊

【参考資料】
○ 県史6 山形県の歴史(横山 昭男・菅田 慶信・伊藤 清郎・渡辺 信 著 / 株式会社山川出版社 発行)
○ シリーズ藩物語 山形藩(横山 昭男 著 / 株式会社現代書館) ○ ペニちゃんのまるごとやまがた(山形市 編集・発行)
○ 山形市水道100年史(山形市水道百年史編集委員会 山形市上下水道部 経営企画課 広報広聴係 編 / 山形市上下水道部 発行)
○ 山形市下水道50年史(山形印刷株式会社 制作・編集 / 山形市上下水道部 企画・発行)
○ 山形五堰まちあるきマップ(山形大学「まちの記憶を残し隊」発行)



山形の秋の風物詩「芋煮会」は、おいしさでつながるコミュニケーションイベント!



【山形市総務部広報課提供】

東北地方の郷土料理で知られる「芋煮」。毎年秋になると、県内各地の河川敷では「芋煮会」を楽しむ家族連れや団体が賑わいます。各地で受け継がれてきた「芋煮」ですが、その発祥は古く1600年代半ば頃。山形が最上川舟運の終点だったため、荷物の引き取りを待つ船頭たちが近くの松に鍋を掛け、地元の里芋と積み荷の棒鱈などを煮て食べたことがルーツと言われています。明治時代になると牛肉が使われるようになり、近頃は鍋の隅にカレーうどんをつくるなど、芋煮は時代に合わせてさまざまに変化し継承されてきました。新年会や忘年会と並ぶ年間行事として親しまれ、今では団らんにかかせないコミュニケーションの場となっています。

そんな山形市では、毎年9月の敬老の日の前の日曜日に馬見ヶ崎河川敷で「日本一の芋煮会フェスティバル」を開催しています。「鍋太郎」と名付けられた直径6.5メートルの大鍋と重機を使い、美味しさ・スケールともに日本一の迫力満点な芋煮

会は、毎年大きな話題に。早朝から調理を開始し里芋3.2トン、山形牛1.2トン、ネギ、こんにやくなどの地元食材をふんだんに使い約3万食分が調理されます。また、2018(平成30)年には「8時間で最も多く提供されたスープ」としてギネス世界記録を達成しました。芋煮は地域によって入れる具材や味付けはさまざまで、フェスティバルでは山形風の「牛肉しょうゆ味」と3メートル鍋で「しお芋煮」が調理され、地元の人達と観光客が楽しめるイベントとして愛されています。

山形名物 日本一の芋煮会フェスティバル

日本一の芋煮会フェスティバル協議会では、大鍋の貸し出しや出張大鍋なども行っています!

TEL.023-622-0141
HP <https://imoni-fes.jp>



広報大使「芋煮マン」



移動式クレーン仕様機を使って調理される芋煮 【山形市総務部広報課提供】



会場である馬見ヶ崎川の河川敷には大勢の人【日本一の芋煮会フェスティバル協議会提供】



直径6.5メートルの鍋太郎

EVENT

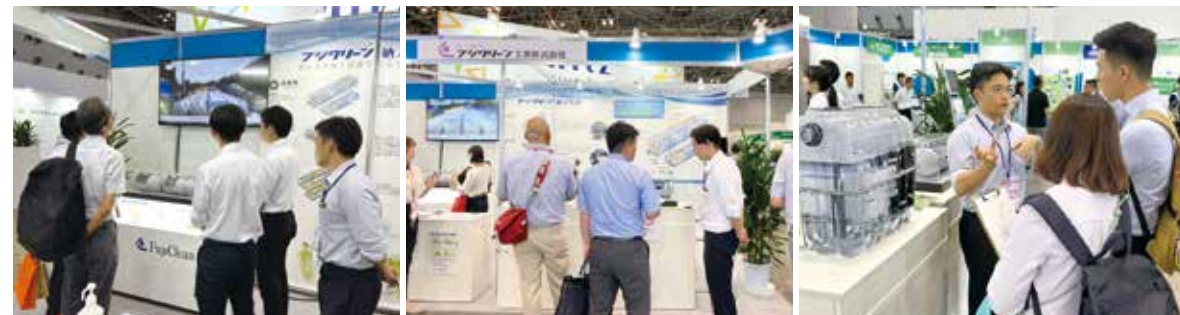
延べ5万人が来場！ 東京ビッグサイトで開催された 『下水道展'24東京』に出展しました。

下水道展 '24東京

2024年7月30日～8月2日の4日間、東京ビッグサイトで『下水道展'24東京』が開催され、延べ5万人が来場しました。下水道展は、地方公共団体の方に向けて、下水道に関する幅広い分野の最新技術・機器、サービスを紹介する国内最大の展示会です。施設の老朽化や豪雨対策、人口減少による収入減など、多くの課題を抱える下水道事業の解決として、最新技術や機器の情報を効率的に収集し、地方公共団体が直面する

問題への対応の支援として開催されました。

今回、フジクリーンは9回目の出展となり、「工場製作型小規模処理施設FGU型」を紹介。ブースには、多くの地方公共団体の方や海外の方にもお越しいただきました。特に、人口が減少し、老朽化した既設下水処理場を抱えている自治体様からは、FGU型への置き換えが処理場のダウンサイジングに最適な手段だとして、興味を寄せていただきました。



働きがい
向上紹介
15

社員の健康を守る福利厚生制度

フジクリーンでは「社員がイキイキと働くことができる職場環境」を目指し、社員一人ひとりの健康増進につながる福利厚生を充実させています。



1. 感染症予防接種費用の全額補助

社員が安心して業務に専念できるよう、季節性インフルエンザの予防接種費用を全額補助し、感染症の社内クラスターを防止しています。また、海外出張者の各種予防接種費用も全額補助します。

2. 定期健康診断の二次検査費用補助

定期健康診断の結果により二次検査が必要とされた社員に対して、会社が検査費用の一部を補助し、疾病の予防と早期発見を促進します。

3. 婦人科検診費用の全額会社負担

女性社員の健康を守るため、健康保険ではカバーされない婦人科検診費用を会社が全額補助することで、女性特有の癌を早期に発見します。

4. 不妊治療休暇・休職制度

不妊治療を理由とする休暇および休職制度を導入しています。治療に専念するための環境を整え、仕事とプライベートの両立をサポートします。

Web
サービス

フジクリーンのWebサイトでは 浄化槽やブロワの製品情報をご覧いただけます！

小型浄化槽のマンホール数や汚泥引き抜き量

小型浄化槽新旧一覧

【掲載内容】●機種や処理方式 ●発売や生産の開始・終了時期 ●マンホール蓋のサイズや枚数 ●汚泥の引き抜き量 ●必要風量

機種	マンホール径別 (単位:枚)				汚泥引き抜き量 (m³)
	φ250	φ450	φ500	φ600	
1	1	1	1	1	2.106
2	1	1	1	1	2.539
3	1	1	1	1	3.023
4	1	1	1	1	3.506
5	1	1	1	1	3.990
6	1	1	1	1	4.474



ブロワ関連情報

1 後継機種を探したい

後継機種が探せるよう、旧機種と現行機種とを見比べられる一覧をご用意しています。



2 補修部品について知りたい

取扱説明書や仕様書、補修部品の一覧や在庫状況に関する情報などがダウンロードできます。



3 ブロワの使用に関するQ&A

ブロワ使用に際し、よくある質問を紹介しています。ブロワを安全に使用していただくための注意事項やタイマー付き汎用ブロワのタイマー設定方法、さらにダイアフラムや弁の交換に関する案内も記載しています。



4 ブロワが浸水してしまったときの対応

河川の氾濫など、万が一のことが起きた際の対応や、平時からの備えなどを紹介しています。



もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

(静岡県浜松市)
NPO法人 浜松市東地域
の自然と文化を残そう会



会長理事
井口 繁和さん

ビオトープでの環境教育を通して、 生きる力と未来への思いをつなげていく。



アメリカザリガニ釣りは、毎回多くの子どもたちが大興奮



夏にはたくさんの
カブトムシの姿も

▼春に植えたサツマイモの苗は、
秋に収穫して焼き芋にします



浜松市中央区(旧東区)豊西町にある「^{じっこいけ}十湖池ビオトープ」は、約350坪の敷地に3つの池と70種類以上の樹木、多種多様な生物が生息しています。この十湖池ビオトープは明治・大正期に活躍した浜松の俳人「^{まつしまじっこ}松島十湖」の所有地にかつて存在していた十湖池を、十湖のひ孫である松島友次さんと地域の方が1999(平成11)年にビオトープとして復活させたものです。その後、地元有志が「浜松市東区の自然と文化を残そう会(以下、残そう会)*」を発足し活動していましたが、メンバーの高齢化への対応と活動の持続化を図るために2015(平成27)年にNPO法人化。現会長理事の井口氏をはじめとする新会員の加入とともに、環境教育の活動をスタートさせました。

「残そう会」では、ビオトープの維持・管理とともに、自然環境を活かした多様なイベントを開催しています。サツマイモを植え収穫する農業体験やネイチャークラフト作り、ビートルベッドを活用したカブトムシの幼虫飼育では、参加者に幼虫をプレゼントしていま

す。特に人気なのがアメリカザリガニ釣りで、子どもたちは普段見られない自然や生き物に触れることで豊かな心を養っています。一緒に参加した家族にも、安心して遊べる自然体験の場としてたいへん好評で、これまでのイベント参加人数は合計3,000人以上。イベント運営には会員の他に近隣高校の生徒が部活動やボランティアとして参加しています。また、池では絶滅危惧種のカワバタモロコシの保護・繁殖活動を県と行い、現在は順調に個体数を増やしています。さらに新しい試みとして他団体と協同で「個人植樹」を開始。子どもたちがポットに植えたどんぐりの苗をビオトープで1年半程育てた後、トラスト地へ植樹します。こうした活動は2024(令和6)年「中部の未来創造大賞」(国土交通省等主催)で優秀賞を受賞。地域の方や高校生ボランティアなど、多くの人と協力し愛される自然を育ててきた十湖池ビオトープは、今後も生き物の命だけでなく、たくさんの人の思いも未来へとつなげていきます。

※浜松市の行政区再編にともない、2024年1月より団体名を「浜松市東地域の自然と文化を残そう会」に変更しました。

美しい水を守る フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市中区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	宇都宮営業所 (028)625-4650	三重営業所 (059)213-5520	宮崎営業所 (0985)32-3064
東北支店 (022)212-3339	群馬営業所 (027)327-5611	和歌山営業所 (073)422-3634	鹿児島営業所 (099)257-3501
東京支店 (03)3288-4511	埼玉営業所 (048)660-5050	広島営業所 (082)843-3315	沖縄営業所 (098)862-9533
名古屋支店 (052)249-5100	千葉営業所 (043)206-5171	高松営業所 (087)869-8680	
大阪支店 (06)6396-6166	新潟営業所 (025)271-8668	松山営業所 (089)967-6123	
福岡支店 (092)441-0222	山梨営業所 (055)275-9300	高知営業所 (088)803-1520	
盛岡営業所 (019)604-2527	松本営業所 (0263)27-2080	佐賀営業所 (0952)31-9151	
郡山営業所 (024)937-0800	岐阜営業所 (058)271-1131	熊本営業所 (096)388-3571	
茨城営業所 (029)851-0031	静岡営業所 (054)286-4145	大分営業所 (097)558-5135	



発行 2024年10月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室